

九重火山の山体変動観測（1998年6月から1998年10月）*

Ground deformation monitoring of Kuju volcano between
June 1998 and October 1998

地質調査所**

Geological Survey of Japan

地質調査所では、1995年12月に九重火山の山体変動観測を開始し、その後継続して実施してきた¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾。観測網を第1図に、光波測距結果を第2図にそれぞれ示す。

光波測距は、長者原のヘルスセンター内に自動連続測距の器械を設置し、星生山から硫黄山にかけての3点に反射鏡を設置して行った。1996年3月下旬からは、器械点CJBと反射鏡K1、K2、K3間の斜距離データが良好に得られた。CJB-K1間の斜距離は観測開始時から一貫して短縮している。CJB-K2、K3間の斜距離には大きな変化は認められない。いずれの測線でも、夏期にやや短縮し、冬季に伸張する傾向が認められた。

今回の観測結果は、95年火口と諏蛾守越の中間付近の比較的浅所にある縦長の熱水対流部の収縮により、変動もたらされているモデルと調和的である。

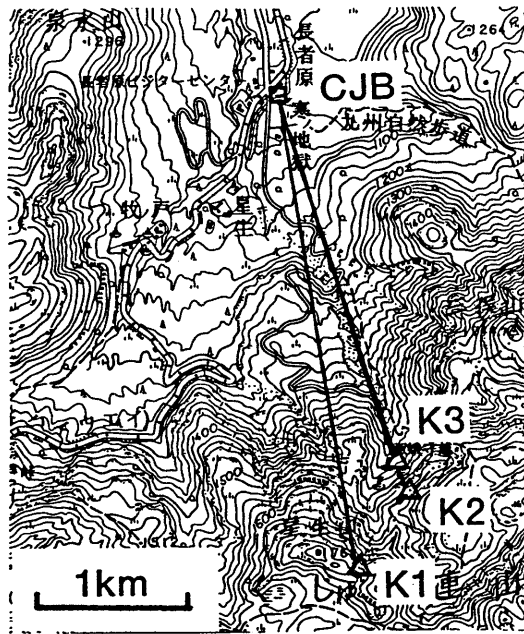
光波測距の器械点は飯田高原観光株式会社の御好意により継続して設置することができた。記して謝意を表する。

参 考 文 献

- 1) 地質調査所(1996):九重火山の山体変動観測(1995年12月から1996年2月)。噴火予知連会報, 64, 43-44.
- 2) 地質調査所(1996):九重火山の山体変動観測(1996年2月から1996年5月)。噴火予知連会報, 65, 80-81.
- 3) 地質調査所(1996):九重火山の山体変動観測(1996年5月から1996年9月)。噴火予知連会報, 66, 93-94.
- 4) 地質調査所(1997):九重火山の山体変動観測(1996年9月から1997年2月)。噴火予知連会報, 67, 55-56.
- 5) 地質調査所(1997):九重火山の山体変動観測(1997年2月から1997年6月)。噴火予知連会報, 68, 73-74.
- 6) 地質調査所(1998):九重火山の山体変動観測(1997年6月から1997年10月)。噴火予知連会報, 69, 96-97.
- 7) 地質調査所(1998):九重火山の山体変動観測(1997年10月から1998年1月)。噴火予知連会報, 70, 42-43.
- 8) 地質調査所(1998):九重火山の山体変動観測(1998年1月から1998年6月)。噴火予知連会報, 71, 97-98.

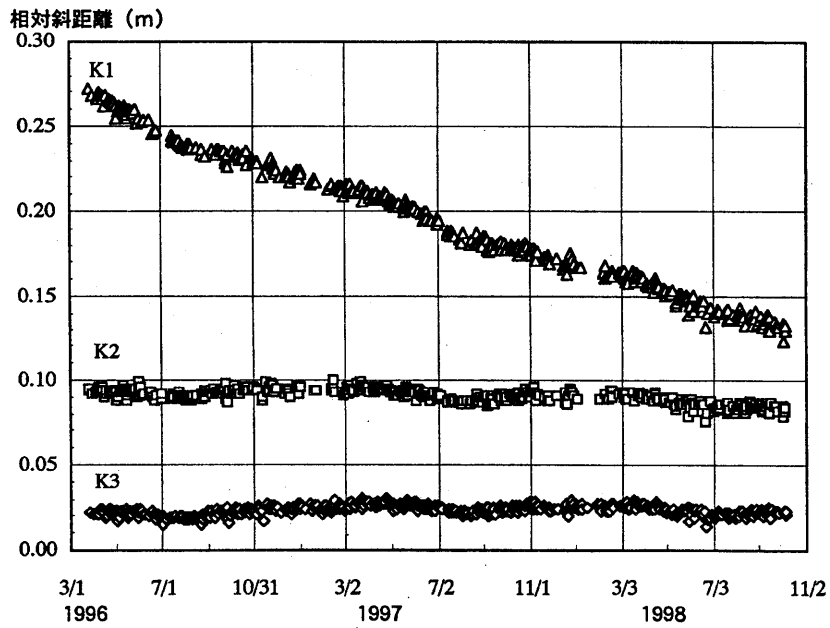
*Received 4 Dec., 1998

** 斎藤英二, 渡辺和明, 須藤 茂
Eiji Saito, Kazuaki Watanabe, Shigeru Suto



第1図 九重火山光波測距観測網，K1，K2，K3は反射鏡点，CJBは器械点。

Fig.1 EDM network on Kuju volcano. K1 to K3 : targets, and CJB : instrument station.



第2図 長者原-K1-3間の斜距離変化。自動連続光波測距による。日没前約2時間のデータを選択し、その平均をそれぞれ3244.70、2783.00、2529.50mシフトさせて表示した。

Fig.1 Change in slope distances between Chojabaru and K1 to K3 using automatic EDM system. selected data in the stable atmospheric condition in the evening are plotted. Add 3244.70, 2783.00 and 2529.50 m for each line.